○柏特別支援学校

質問;いつから就学準備を始めたか。進路決定の決め手(今の学校を希望した理由)

・つばさ学園在籍時(年長時)、個人面談で就学先について相談したところ、クラス担任からアドバイスを受けたことと、就学相談時に支援学校が良いといわれ、納得し、 支援学校への進学に意識を向けていった。

支援学校の決め手は今後、自立していくために必要なことを身に着けていくことが できる(教えてもらえる)場所だと考えてのこと。

・年長になって発語は増えてきたが、本人が困ったときに周りに発信できないと思い、 支援学校に決めた。

質問;就学前に用意しておいて良かった物、事。

- ・文具やその他の持ち物は学校から保護者に伝えてくれる。上履きなど具体的にアド バイスをしてもらえる。
- ・低学年の間はランドセルで通学している子もいる。放デイ利用の子どもは荷物が多くなってしまうので、リュックを利用しているケースが多い。
- ・全部の荷物を1つにまとめて登校するよう言われるので、入学説明会などでリュックの容量を伝えられる。休み明けは学校での着替えや放デイの荷物、防災頭巾などかなりの量のものをリュックに入れて持っていっている。

在園児保護者より

- ・購入は就学奨励費を利用するとよいという話をきいた。
- ・購入分のレシートを取っておくとよいとのこと。10月以降の購入で使えるらしい。 (ランドセルの購入も可能のよう)

質問;放課後デイ探しで注意すべきところ、見学で見るべきところ。

- ・子どもに合っている放デイを探すのが良い。『リトミックなどの運動活動中心』のところ、『勉強』、『自由にすごす』ところなど何か所か行ってみるとよい。安全面に配慮しているところがベスト。
- ・場所(建物)がいや、行っている活動が苦手、など子どもが嫌がることがあるので、 一緒に連れていき、馴染めたところと契約するとよいのではないか。
 - 必ず説明会があるので、利用するとよい。
- ・通ってみて合わなかったら事業所を変えることも可能。
- ・学校で過ごした後で、放デイを利用するので、回数などは利用後の子どもの様子を みて決めてもよいのではないか。

在園児保護者より

・今年度は放デイの見学や契約をしようと考えていても断られるケースが出てきた。 空きがなく、家から遠い事業所になってしまうこともある様子。 ≪学校生活について≫

質問;学校での様子(先生がどのくらいいるか、授業はどんな感じなのか、個々の成長に合わせた支援をしているのかなど)

・小3から在籍人数が増え、1 学年42名となった。4年生以上は1学年20名程度。 1クラス6~8名。教員は2~3名。その他に介助員が1~2名。

○着替え

・学校では登校後、帰宅前に着替えをしている。登校後に着替え、日中はそのまま過ごす。下校前に来て着た服に着替え、帰宅する。トイレットトレーニングのため、 日中、布パンツに履き替えることも可能。

朝、着替えるのは就労を考えてのこと、脱ぎ着しやすい服など相談は可能。

質問;偏食の子どもの給食対応

・苦手な食べ物が多い子に対して個別の細かい指導は難しいが声掛けをしたり、形態 の工夫は可能。一口食べたら残してもよい、という対応もしてくれている。 低学年は教室でそれ以外は食堂を利用。

アレルギーやその他の配慮が必要な場合は入学前の面談で伝えておくとよい。

質問;おむつを使用している子のトイレ事情

- ・心配であれば紙パンツの使用も可能。時間排泄(教員が声掛けをして連れて行く) ○その他
- ・自主登校(バスを利用しない日)の時間は早くて8:40、基本、9:00くらい。
- ・日課は午前中2コマ、午後1コマ。体育など体を動かすものは午前中。 午後は個別指導の時間になる。個別指導の対象でない日は『遊びの時間』になる。
- ・情緒不安定になったり、登校を渋る等でバスに乗れない場合、自主登校が可能。 学校への連絡は給食の有無も伝える必要がある。
- ・入学当初は11:30に下校。バスを利用できるのは1週間後くらい。学校からバス利用可の指示がある。

≪送迎について≫

質問:バスの乗車時間について

・現在、バス8台運行。大型バスは添乗員2名、小型バスは添乗員1名。 1時間程度の乗車時間。

質問;スクールバスのバス停と自宅、どのように移動しているか

・自宅から近いバス停を利用するように通知がある。自宅から離れている場合はバス 停の近くに車を停め、送迎する。

レインコートなどは脱がせて乗せる。

重複児もバスを利用しており、席の配慮、補助ベルトなどの対策をしている。バスが遅れる時はメールで連絡がくるので助かっている。

・胃腸炎の治りかけはバス乗車不可となっている。

≪学校後のこと≫

質問;長期休みの過ごし方

・夏休みは1か月半ある。休みの間、放デイを利用していたため、新学期になりうまく切り替 えができずパニックになる様子が見られた。

≪子どもの変化≫

学校に行ってからの生活時間の違いや本人の変化の様子

- ・特に大きく変わった様子は見られない。
- 体力がついたように思う。
- ・起床時間が早くなった。

質問;入学を控えている保護者に伝えておきたいこと

;入学してから他の保護者と交流を持つ機会はあるか

- ・PTA や保護者会には参加しておいたほうが良い。勉強会 (子どもへの接し方など保 護者むけのもの、グループホームや就職の説明会、施設見学等の機会がある。
- ・PTA の集まりや保護者会(勉強会)などを欠席した場合は会議や勉強会の配信があるの で、内容を確認することが可能。

仕事をしている保護者が参加しやすいようになっている。

また、勉強会では後日資料をもらうことも可能。

活動は年4回程度。父親の参加率も高い。また、『父親の会』もある。

・子どものことは家族に協力してもらい、共有していくことが大切。

質問;母親が働いている場合、学校の後、放課後デイなどの事業所を利用しているか

・学校終了後は放デイを利用している。登校時はバスの時間もあるので、職場との話し合 いや家族の協力をもらって仕事を続けている。

○その他

- ・コロナ禍後から運動会が授業の一環(ミニ運動会)として実施されるようになった。 はくよう祭も学年ごとになった。
- ・台風、雪などで休校になることが多い。→放デイによっては預かってくれるところもあるの で、就労している保護者は確認してみるとよい。
- ・体調不良やケガでの呼び出しあり(発熱;37.5以上、転倒などで頭を打ったなど)。

そ 0)

他 全

般

○松戸特別支援学校

質問:就学前までにやっておいたほうが良いこと

質問:就学前に用意しておいて良かった物、事

- ・ 障がい者手帳を作っておくと良い。
- →学校では、登下校や移動で車いすを使用している。車いすを作成するためには、障がい 者手帳が必要のため、用意しておくと車いす作成がスムーズにいく。
- ・ 車いすは、2台同時に作成するのが良い。
- →登下校用(家用)と、学校用として使用。成長によってサイズが変わってくるが、一度作ると、3年程作ることができない場合もある。
- ・ 入学時に車いすにあったほうが良い物として、転倒防止バー。
- →装具など、車いすに荷物を掛けることが多いため、職員からは、バーをつけるよう話があった。
- ・ 車いすカバー:自分でタイヤを触ってしまいそうな子はつけている。
- →カバーの中の丸い部品が、外れてしまうことが多いため、名前を書いておくと良い。

質問:放課後デイ探しで注意すべきところ、見学で見るべきところ、放課後デイの利用状況

- ふわりを利用中の方
- →流山市民は少ない印象。週2日の利用をしている。
- →仕事をしている方は週5日利用中。
- →職員は優しく、手厚いため、人見知りがなくなった。
- →利用中に使用した食器は洗ってくれており、学校で使用したお皿も拭いてくれている。
- ・ ひまわり南流山を利用中の方
- →医療的ケアはない。
- →週5日利用中。
- →外で活動をしてくれるところに惹かれた。
- →短時間でも散歩をしてくれる。
- (小学部の間は、松特は外に出る活動がない。保護者からの要望があれば出ることも可能。 中等部では、庭に畑があり、活動で外に出ることがあった。)

≪学校生活について≫

・療育と違うと感じたところ(良い面も悪い面も)

就学後

≪送迎について≫

質問:保護者の負担(送迎や学校参加など)

就学前

その他全般

- ・ 入学後、バスで登下校するまで約1か月かかり、その期間は送迎が必要となる。
- →保護者の送迎のほか、福祉タクシーを利用する人もいる。
- ・ はじめはバスを利用していたが、他児の奇声で発作の症状が出たこともあり、送り迎え をしている家庭もある。
- →送り迎えだと、学校での子どもの様子を、担任から直接聞ける。
- ・睡眠リズムのこともあり、送りは車で、帰りのみバスを利用している家庭もある。

質問:PTA ついて(学校参加)

- ・職員から、無理はしなくて良いと話があった。
- · 会費を払い、PTAをしない制度もある。
- →その場合は、年3回ほど配布される広報がもらえない。(大事なことが書いてあるときもある。)
- · PTAの大変さはあまり感じない。
- · 子どもの体調や、用事が優先でもちろんOK。
- ・ 他学年の保護者とも関われるので、悪いことばかりではない。

質問:バギーや車いすに乗っている児童は、車いすやバギーをバスに積むことができている か

- ・ バスに乗せられる車いすは、数に限りがあるため、車いすは乗せず、抱っこで乗せ降ろしをしている。
- →リフト乗車できるのは、バス1台につき1人か2人程度。
- →路上での長時間の停車はNGとなっているため、抱っこでの乗せ降ろしをしている家庭が ほとんど。
- →座席の場所や形状は、職員が子ども1人ひとりに合わせて考え、提案してくれる。保護帽もかぶっている。
- ・ 車いすでの登下校も可能だが、放デイを利用する場合のことも踏まえて考える必要が ある。

質問:リュックについて

- · 20ℓほどの大きさを使用している。
- →装具や保護帽を1つにまとめる必要がある。(カラビナ等で1つにまとめる方法も可能。)
- 子どもが持つことはないので、大きさや重さの問題はない。
- ・ 放デイに通っている子は、バスタオルやおむつ、着替えを持っていく必要があるため、荷 物がさらに増える。

質問:給食について

・ コップやスプーン、タオル、食器、はさみ、とろみ剤(学校での保管可能)、食事介助用の

手袋、口周りの赤みが出たとき用のワセリン等、すべて家で用意をしている。

- ・ 水筒は、子どもによってサイズが異なるが、500ml~1lのものを使っている子が多い。
- ・ 給食は、マンツーマンで行っており、食前の口腔マッサージなどを丁寧に行ってもらえて いる。
- ・ 日によって、食事介助に入る職員が異なるため、残食量は計測して、記録がされている。 →計測用のスケールや電卓も、家で用意をし、学校が保管をしている。

質問:授業について

- ・ 子どものレベルによって、分けられている。
- ・ 国語や算数の授業をするクラスもあれば、足湯など身体のケアを中心としたクラスもある。
- ・ 職員と子どものやり取りは多い。
- ・ 英語(ATL在中)や、数学(ルート)、国語(俳句)、書初めなどの授業内容もある。
- ・ 授業では、1対1で「どっちがいい?」と選択肢を与えてくれて、手の動きや目の動きなど、子どものちょっとした反応をくみ取ってくれる。
- ・ 朝の会の当番などでは、子ども1人ひとりできる内容が異なるため、子どもにあった内容 で参加ができている。その際も、催促はせずに、子どもの反応を待っていてくれる。
- ・ 活動については、職員がいろんなことを考えて実施してくれている印象。

質問:学区について

- ・ 今回参加してくださった卒園児は、全員流山市在住。
- · 学区は、住所によって分かれている。
- ・ 就学相談の際、松特に通いたい理由について質問される場合がある。
- →実際に回答した内容:かかりつけ医(病院)が近い。(医師の診断書を提出した人もいる。)
- →送り迎えや、緊急時の迎えに行きやすい。など。

質問:松特の見学について

- ・職員の対応では、肢体不自由の子ども達との関わり方に慣れている様子が伺えた。
- ・ 学校の場所は、栗ヶ沢。
- プールがある。
- ・ 食形態の幅が広く、対応してもらいやすい。
- 見学は、年少の頃からでも行くことが可能、(松特に限らず。)
- ・ 校舎は古いが、掃除を良くしてくれている印象で、古さにも次第に慣れてくる。

質問:野田特の見学について

のどかで校舎がきれい。

- ・カリキュラムがしっかりしている。
- ・食形態は変更が難しく、普通食以外の提供はないとのこと。(必要があれば対応可能という話もあった。)
- ・肢体不自由の子どもは少なく、授業のレベルが高い印象。
- ・周りは歩行を獲得している子が多く、騒がしい。

質問:小学校に入る前にショートステイを利用したことがあるか、について。

- ・ 全員、利用したことがない。
- ・ 中1の同級生ママの中には、旅行のために1週間預けている家庭もある。
- →家族みんなでの旅行では、兄弟児に色んな経験をさせてあげることが難しいという理由 から。
- ・保護者が体調不良で、子育てをすることが困難な時、どうしたら良いか悩むときがある。
- →緊急な時は、担当の相談員へ連絡をし、状況を伝えたところ、早急に宿泊先を探してもらい、案内してもらえたことがあった。
- ・ ブルーム:短期入園の受付のみしておくことが可能。小さい頃は、預けることが可哀想に 感じてしまうので、緊急時用。1人で寝られないと利用が難しいのが現実。
- ・ 病院とショートステイには、大きな違いがあり、夜間は特に心配な点が多い。

質問:自宅での入浴介助について

- ・ 抱っこでしている。
- 入浴介助サービスの利用はできるが、訪問看護の事業所が少ないのが現実。
- 医療的ケアについては、たんぽぽを利用していたことがある方もいる。

○特別支援学級

質問:見学時期と回数(何月から始めたか)

- ・年中・年長時に学区の支援級見学に行った。(広報を見て自分で学校に連絡を入れた。)
- ・学校見学とは別に、子ども自身が授業体験を受けることが出来た。
- ・就学時検診(支援級希望の場合でも他児と同じように案内され、検診を受けた。)
- ・入学式前日に小学校から連絡があり、入学式のリハーサルを行えた。

質問:通うと決断した経緯と時期はいつか(具体的に)

・就学相談を受ける時には、支援級に通わせると決めていた。(年長の秋頃)

質問:支援学校か支援学級で迷っているが、どちらに通うか決めたか。その決め手は何だったのか。

・決め手は、トイレの自立。(学校側から言われてはいない)また、身支度や自食ができることも考えた。

トイレの自立→小学校の先生や介添の先生はトイレの中まで入ってサポートはしない。異性の先生に関しては、トイレの外から声掛けをする程度。(トイレの中に立ち入ることが出来ないため)

身支度→体育などは休み時間内に着替えを自分で行うため。担任や介添さんからは、介助はなく、声掛け程度。

給食→箸が使えなくても特に言われない。補助箸(エジソン箸)を持って行っている。スプーンやフォークの入った食具セットを持って行っても問題ない。

質問:いつから就学準備を始めたか?:就学前に用意しておいて良かった物や事。

・支援級に行くと決めてから、すぐにできることから準備し始めた。

トイレに行くときには、「トイレに行きたいです」と伝えるように練習したり、出かける前にはトイレで排泄する練習をした。

- ・入学説明会の時に聞いた持ち物や道具を見せて、使い方や体操服のたたみ方など練習をした。
- ・「GPS」をランドセルに付けておくことで、親は安心できている。(学校まで迎えに行ったが、 子どもが先に帰宅してしまい、すれ違ってしまったことがあってから GPS を着けることにし た)

就学

後

≪学校生活について≫

質問:普通クラスの子どもたちとはどれくらいの頻度で交流があるのか

・教科ごとに普通級と交流できる。保護者と担任で話て教科を決める。(国語・算数・体育・音楽・生活)介添の先生は低学年を優先してくれていて教室まで付き添ってくれる。

就学前

- ・通知表は、評価はしない。
- ・登校したら朝、交流級の先生の所へ行き日課の確認を行っていて、その場で先生にこの教科は参加するしないを決めることもある。
- ・大きな音が苦手な子は、イヤーマフを持参して、必要な時に自分で着けている。

質問:就学してから感じたこと(想定外だったこと、躓きや発見ごとなど)

- ・わからないことは、すべて連絡帳を通して担任に質問しているが、担任によって連絡帳で のやり取りがない場合がある。保護者から、連絡帳を用意したことがある。
- ・授業の参加についても、担任の先生によって変わる。

≪送迎について≫

質問:登下校の付き添いについて(終了したタイミングやその後の様子、送迎の付き添いの 必要性など)詳しく聞かせてほしい。

- ・一年生の時は、集団登校ではあったが他の子と同じペースで歩くことが出来なかったため、4 月は毎日学校まで付き添いをしていた。徐々に付き添いの距離を短くして3学期には、親の付き添いはなく他児と一緒に登校した。
- ・通学班がなく、近所に一緒に登園する子どもがいなかったため、親が付き添っていた。下校の時間に合わせて見守りながら下校させていた。1 年の 11 月ごろから単独で登校するようになった。

質問:兄弟への影響(友達から何か言われたりしなかったか)

・担任の先生と話し合いながら、兄弟サポートを行える。

質問: 放課後デイサービスの契約の決め手やどのように契約をしたか。

・できる限り早く契約を決めた。児発も行っている場合は、つばさに通いながら、土日に利用 し始めた。(子どもが早くなれるために) 卒園児保護者で、当日予定が合わず、質問に回答してくださった保護者の内容も紹介します。

特別支援学級-南流山小学校(つくし:知的支援級)

【就学前】

・見学時期と回数 → 2回・年中と年長の時

子供が年中の時に、支援学級の見学説明会に参加しました。人数が多くなければ、未就学児の保護者でも参加可能です。(事前に申し込み必要の為、電話で問い合わせをしました) 入学前も支援学級の見学説明会に参加しました。(その時は10月に開催、事前に案内あります)

・通うと決断した経緯と時期はいつか

時期としては10月頃、市の教育支援委員会の審議結果もでた後に決断しました。 経緯としては最終的に支援級を希望したのと、教育委員会の審議結果も「知的特別支援学級の学 習が適応である」となった為。

・支援学校か支援学級で迷っているが、どちらに通うか決めた決めては何か

*支援学級→学習がメイン *支援学校→自立支援がメイン と思っていたので、うちの子は身体的な障害(右片麻痺)もあり、最初は支援学校の方がいいと思っていました。
支援学校には見学と体験も行き、子供の様子を確認したところ、体験の際に周りのお友達と話したりしてコミュニケーションを取ることが難しく、先生とお話をして楽しんでいました。
その時期はお友達と話をしたり、マネをしたりすることで言葉の理解力が高まり、コミュニケーション力もついていった時期なので、コミュニケーションが取れる環境のほうがいいのではと思ったのと、療育先の先生や保育園の先生に同じように勧められたのも決めてとなったと思います。また、途中で転学できることもわかったので、途中で支援級だと勉強や他のことについていくのが大変になったら再度支援学校も検討しようと思い、最初のうちは支援学級に通いながらお友達とも交流してたくさんのことを学んでほしいなと思いました。

・いつから就学準備をはじめたか?

5月の就学説明会の後、発達検査を受けたり、支援学校を見学したりと準備を進めました。 実際に見学は9月頃、同時に放課後デイサービスも調べたり見学したりしました。

・就学前に用意しておいて良かった物、事

- *生活習慣→ 早寝早起き、1人での着替えや学校の準備などの練習
- *物 → えんぴつの持ち方サポート(公文)

学校生活では時間内に体操服に着替えたり、次の授業の準備をしたりと1人でやることが多くなります。声かけはしてくれますが、自分でやらないといけないので練習しておくとスムーズか

と思います。

【就学後】

学校生活について

・普通クラスの子供たちとはどれくらいの頻度で交流があるのか

1年生から国語・算数以外の教科はどんどん交流級のクラスに参加してます。

(音楽・図工・体育・生活など)

行事も基本的に交流のクラスで参加するので、交流の頻度は思っていたより多かったです。

・就学してから感じたこと

交流に参加するタイミングなどは保護者と相談して決めるのかと思っていましたが、いつのまにか参加していてびっくりしました。うちの子の場合は身体的なハンデがある為、体育に関しては学期ごとにやる内容を確認させてもらい、参加するものを子供と相談して決めさせてもらうことにしましたが、要望などはこちらから先生に相談する必要があります。

支援級には様々な学年の子がいるので、上級生たちがお世話をしてくれたり、助けてくれるので うれしく思いました。うちの子は兄弟がいないので、いろんな学年の子と交流できるのはよかっ たです。

ひらがなの読み書きもできない状態で入学し、心配しましたが支援級でも障害の程度や学習のペースは本当にそれぞれ違うかと思います。 1年生の3学期には自分で連絡帳に黒板の板書をして書いてこれるようになり、いい意味で周りのお友達に刺激を受けて成長しているかと思います。

1年生の1学期は癇癪やチックなど情緒が乱れることが多く、環境の変化によるストレスの影響が大きかったです。

子供にとっても不安が大きかった為、環境になれるまでかなり時間がかかりました。

送迎について

・登下校の付き添いについて

登校班などはありません。支援級の子も基本的に1人で登下校してる子がほとんどです。

1年生の場合、1週間ぐらいは保護者が付きそいで登下校しているかと思います。

うちの子は肢体不自由がある為、基本的に朝は私が付き添いで登校し、帰りは放課後デイサービスの送迎を利用しています。支援級のクラスの下駄箱は高学年側の校舎にある為、不安な人は教

室の窓から直接入っても大丈夫です。先生に相談したいことがある場合や、学校での様子が知り たい場合などは付き添いで登校すると先生や介助員の先生とも話をしやすいかと思います。

【その他全般】

・兄弟への影響

うちの子は兄弟がいない為、ちゃんとした回答ができないのですが兄弟がいる子でお兄さんや お姉さんがクラスまで付き添ってくれたりする場面をみたことはあります。

兄弟ではないのですが、支援級の同じクラスの男の子が登校後に校庭で遊んでいた様子をみた 高学年の男の子たちがからかうような発言をしたりする場面に遭遇したことはあります。

・放課後デイサービスの契約の決め手やどのように契約したか

デイサービスもいくつか見学をし、体験をしたりしました。

放課後デイサービスも色々あり、療育に力を入れているところや運動メインのところなど色々 特色があります。

支援学校ではなく、支援級に通うことになったので療育にも力を入れているところがいいのでは?と思い最初は2カ所契約していましたが、現在は1カ所のみに通っています。

学校生活でもずっと勉強し、集中しなければいけないので疲れてしまい、その後にも療育メインのデイサービスで決められたことをしないといけない環境ではうちの子の場合は疲れ果ててしまい、家ですぐ寝てしまったり、癇癪があったりとありました。現在通っているデイサービスはアットホームで自由に過ごさせてもらえるので、宿題をした後は遊んだりのんびりしたりしてとても楽しく笑顔で通っています。

先生方の雰囲気もよく、お手伝いをさせてくれたり、手作りおやつを作ったり自活支援にも取り組んでくれています。2カ所所通うことで、それぞれの違いなども比べることができてよかったと思っています。

療育をメインにしたいなど、放課後にどのように過ごさせたいかを考えて放課後デイサービス を探していくといいかと思います。

1カ所ではなく、他のところにも通うことで違いもよくわかると思います。

放課後デイサービスは学童に比べて時間帯も短いので、学童と併用している子も多いです。 送迎や預かりの時間帯など、家庭の状況にもあったところを探す必要があるかと思います。

その他

11月頃の就学前検診は支援級の子も一緒です。うちの子は階段での移動が心配だった為、先生に伝えたところ、私が付き添いで検診することになりました。

上級生がグループごとに2人ぐらい付き添ってくれますが、この時期は人数も多かったのでかなりの人でにぎわっていました。

入学前説明会も支援級は別ではなく、一緒です。準備するものは基本的に支援級の場合でも入学 のしおりに書いてあるものをすべて準備しました。

算数セットなども使うのかな?と思っていましたが、先生に確認したところすべて1年生と同じものを買って準備してくださいとのことでした。

入学式前の面談ですが、担任の先生が決まってから学校より連絡がありました。

事前に面談希望かの確認だったので、面談を希望して子供の様子や配慮してほしいことなどを 伝えることができました。はじめての場所が苦手だった為、子供も一緒に行って教室の様子や入 学式の体育館を直接見て説明を受けることができました。

支援級のクラスは基本的に7~8人ぐらいで、学年は様々です。

南流山小学校は現在知的支援級(つくし)が2組、情緒支援級(ひだまり)が1組です。

ことばの教室もありますが、支援級と併用して通うことができません。

基本的に女の子より男の子の方が多い印象です。

支援級のクラスだけでもお菓子を作ったりなどのイベントをやったり、他の支援級との交流イベントなどもあります、

給食は一つの教室に集まって支援級全クラスのお友達と食べています。

お箸の日がありますが、うちの子はまだうまく使えないので補助のお箸とスプーン&フォークを持っていきます。ケースにいれたハサミも持参し、おかずが大きくて食べにくい場合は先生にお願いをして切ってもらったりと対応してもらっています。